

白樺派のカレー

Vol. 1

白樺派のカレー物語

そのむかし、大正時代のころでした。
手塚はついでに白樺派の文人達が暮らす鶴と、活版屋の創作活動もしていた頃の事跡です。
当時としては革新的な食文化の事跡であったカレーが、
なんと、ここ鶴とで作られていたのです。
そのカレーを作ったのは、鶴と菓子という作家でした。
菓子とは白樺派の中心人物であった尾形 武彦と、尾形山の工務店にほんでいました。
そこで美味しいカレーを作って、尾形武彦や武彦の心臓病医達にふるまっていたのです。
ここがその頃ですが、そのカレーには、肉豆蔻（ナターター）の風味で、
同じ味の調味料が入っているのです。
今、大正時代の香り高いそのカレーが、九十年の歳月を経て、再び鶴とで焼かれました。

— 文 —

鶴とにおける白樺派文人達の定跡を、新たな角度から考えたい。
そんな思いで九十年の鶴とでそのカレーを再現しました。
歴史と文化に基づく「白樺派のカレー」の再現を記念として、
食の安全、地産地消、地域振興などにつなげていきます。
このカレーでは、地元の野菜と味噌、国産の肉を使用しています。



鶴とで焼かれました



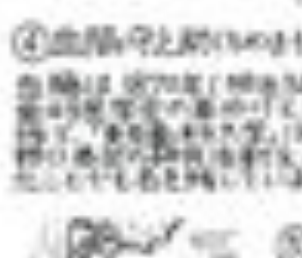
① 甲武若小路文藝館 (Kawakubo Onna no Iwa no Kaikan) ◆
 武蔵野の文藝館。1947年に設立された。武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。



② 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。



③ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。



④ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。



⑤ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。



⑥ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑦ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑧ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑨ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

白鷺流の文芸館
 武蔵野の文芸界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑩ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑪ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑫ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑬ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

⑭ 武蔵野文芸館 (Musashino Bunko) ◆
 武蔵野文芸館は、武蔵野の文藝界の発展を期して、作家の交流の場として活動している。館内には、作家の書斎や、展示室などがある。また、定期的に文芸講座や、作家の講演会なども開催されている。

柳井子ってどんな人?

柳井子
 柳井子(やねくら しげお)は、1892年(明治25年)東京府武蔵野郡武蔵野村(現武蔵野市)に生まれる。幼少から文筆活動を始め、1917年に『小説』でデビュー。1920年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。1930年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。1940年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。1950年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。1960年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。1970年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。1980年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。1990年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。2000年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。2010年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。2020年代には『小説』、『小説』、『小説』などで活躍。

白樺派のカレー

Vol. 2

白樺派のカレー物語

そのほか、明治時代のことで、
手賀沼のいり白樺派の文人達が暮らして、洋食を創作活動をしていっただけのことでも、
当時としては先進的な食文化の事象であったカレーが、
なんと、ここ真田子で作られていたのです。
そのカレーを作ったのは、柳 兼子という声楽家でした。
兼子は白樺派の中心人物であった森田 宗太郎、丸神山の三浦派に属していました。
そこで美味しいカレーを作っては、志賀直哉や武者小路実篤達にふるまっていたのです。
さらだけのことですが、そのカレーには、梅田家・ローランド・ローランドの風味で、
隠し味の味噌が入っていたのです。

今、天竺サツの葉が茂るカレーが、九十年の歳月を経て、再び真田子の地に咲きました。

真田子カレー

真田子カレーの白樺派文人達の足跡を、新たな角度から考え、
改めて九十年前の柳兼子さんのカレーを再現しました。
真田子カレーの「白樺派のカレー」の再現を起点として、
食の安全、地産地消、地域振興などにつなげていきます。
このカレーでは、国産の肉・野菜・味噌も使用しています。

